

【特色ある教育活動】

自ら進んで学び、いきいきと思考・表現できる児童を育てるために、小中9年間の系統性を重視した計画をもとに教育活動を展開する。特に小中一貫して授業規律の定着を一層推進するため、授業開始時間だけでなく、特に終了時間を厳守する。さらに、本校では、地域の自然及び人材を活用して、栽培活動・交流活動・文化活動等を展開しながら「子どもたちが育ち輝く、心身ともに元気な学校」の教育活動に取り組んでいる。

(1) 「思いやりのある心」……他人の痛みの分かる子に育てる。

①教師と児童のけじめをつける。

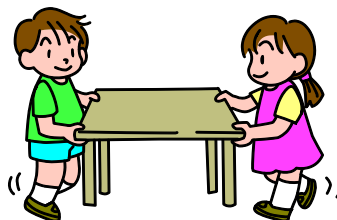
教師は「さん」「くん」をつけ、きたない言葉は禁止。

②いじめは「しない」「させない」「みのがさない」。

③学級会活動の充実（話し合い活動）人間関係の構築

④真剣清掃古いと汚いは別。

⑤忘れものをゼロにし、学習規律の基礎を築く。



(2) 「考える力」……考えるもとになることを続けて行う。

①よく読み、よく書く子。児童の忘れ物をなくす。

②声を出して読む。全文視写をする。

③活字の本（物語本）を根気よく読めるようにする。

④45分授業の実施。基礎基本の定着。

⑤自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、活用能力及び表現想像力の育成。

⑥人とのかかわり（学年1取組+ α を目標にする）。



(3) じょうぶな体……じょうぶな体になることを続けて行う。

(25年度スポーツ推進校)

①「よく走る」ことの日常化。

②体育授業は運動量を上げる。（45分中半分以上は体を動かす）

③体育授業はランニングを必ず入れる。

④山登り遠足をする。

⑤食育を通し偏食をなくす。



【このことをするために「当たり前のことを丁寧に教える学校」をめざし、「当たり前のことを根気強く学ぶ子」を育てます。】